

【本校の修学旅行 その目的】

新型コロナウイルスの感染拡大により、今まで何事もなく？行われてきた教育活動が実施できなかつたり、実施方法が大きく変わったりすることとなりました。一つ一つの教育活動により多少違いはありますが、残念とか物足りないとかいった感想が生徒や保護者から多く聞かれます。一方で教育活動そのものの在り方を再考するきっかけとなり、今まで慣例的に行われてきた教育活動を見直すきっかけとなったという声も教師側にはあります。

ここで大事なことは、この教育活動の実施方法が見直された経緯や議論した内容について、その教育活動の目的と照らし合わせ、学校が生徒や保護者にしっかりと納得いくまで説明しなければいけません。この部分がおろそかになると、生徒にとってはただの残念な出来事として残ってしまいます。

そう考え、これから本格的に取り組む中学校2年生の修学旅行について、本校が考える目的と実施方法をお知らせすることとしました。

まず修学旅行の目的は、

「訪問先において、普段では得られないような自然や文化、産業など多様な情報や刺激に親しみ、学校で学ぶ学習に関連付け、深い学びにつながる機会とする。」

と考えます。もちろん思い出づくりの一面も大事です。しかし、せつかく多額の費用をかけて実施するわけですから、活動と日頃の学習につながりを持たせないと、ただの思い出旅行で終わってしまいます。それではもったいないのです。

そのため本校では、昨年から次のような方法で修学旅行を実施しています。

- ①「あわら考幸学（校長室から7月1日号参照）」の一環として、日頃の学習の延長に修学旅行を位置付ける。またその後も、訪問先から得られた情報をもとにあわら考幸学としての考察を深めていくために、実施時期を3月から4月ごろとする。
- ②訪問先の決定や訪問地での活動全般を、生徒自身が企画する。その際、旅行業者に生徒の活動支援を依頼する。
- ③修学旅行の企画、実施の準備として、中学校1年生から校外学習等を企画し実践することで、計画的に企画力や実践力を高めていく。

このような目的で行う修学旅行は、近隣の中学校とは異なるものです。しかし、本校ではこの修学旅行の在り方について、中学校入学した時から丁寧に話をしてきています。そして、他校とは違う本校の修学旅行に誇りを持たせていきます。この部分が大事なんです。

保護者の皆様にもこのことをご理解いただき、本校が取り組む修学旅行の価値について後押ししていただけますようお願いいたします。